青森市埋蔵文化財調査報告書 第100集

阿部野（1）遺跡

発掘調査報告書

平成 20 年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第100集

阿部野（1）遺跡

発掘調査報告書

平成 20 年度

青森市教育委員会

序

平成21年１月現在、青森市内の埋蔵文化財包蔵地は約400ヶ所を数え、各種公共事業や民間土木工事に際しては、慎重を期すとともに記録保存を前提とした発掘調査が実施されております。

今回、調査した阿部野（１）遺跡は、青森市大字幸畑字阿部野地内に所在する縄文時代早期～後期の遺跡であり、高圧送電線（沖館線）鉄塔建設工事に先立ち、発掘調査を実施しました。その結果、縄文時代の土坑、土器・石器等が検出されました。

本書は、このたびの発掘調査成果をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財保護ならびに啓蒙の一助となれば幸いです。

本書の刊行にあたり、調査委託者であります東北電力株式会社青森支店をはじめ、関係機関および関係各位のご理解とご協力に深く感謝いたします。

平成21年３月

青森市教育委員会

教育長　角田　詮二郎

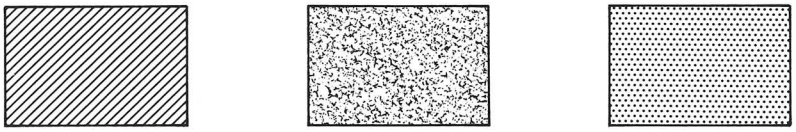
例　　言

1．本書は、青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市大字幸畑字阿部野に所在する阿部野（1）遺跡の発掘調査報告書である。
2．本書に記載される内容は、平成19年度（平成20年２～３月）に実施した高圧送電線（沖館線）鉄塔建設工事に係る発掘調査成果をまとめたものである。
3．本遺跡は、青森県埋蔵文化財包蔵地台帳に遺跡番号01050として登録されている。
4．本書の執筆ならびに編集は、青森市教育委員会（設楽政健・野坂知広）が行った。執筆分担は各文末に記した。
5．出土遺物および記録図面、写真関係資料は青森市教育委員会が保管している。
6．引用・参考文献は巻末にまとめた。
7．発掘調査および報告書の作成にあたって、次の各機関・各位からご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。

青森県教育庁文化財保護課、青森市史編さん室、東北電力株式会社青森支店、葛西　勵

凡　　例

1．挿図番号および表番号、写真図版番号は本書を通じて連続するものとし、「第○図」、「第○表」、「写真○」と表記した。
2．遺構の略称は、土坑＝ＳＫである。また、遺物実測図には括弧内に出土遺構あるいは出土グリッドを明記した。
3．図中で使用したアルファベットを用いた略称は、土器＝Ｐである。
4．挿図の縮尺は各図毎に示した。また、写真図版の縮尺は統一していない。
5．遺物実測図・遺物写真図版の縮尺は、1/2である。なお、遺物写真図版には個々に挿図（遺物実測図）の図版番号を付してある（例：10－１＝第10図１）。
6．土層の注記は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄1993）に準拠した。
7．図中で使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



目　　次

序
例言・凡例
目次
第Ⅰ章　調査の概要 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1
　第３節　調査方法 …… 2
　第４節　調査経過 …… 3
第Ⅱ章　遺跡の概要 …… 4
　第１節　地理的・歴史的環境 …… 4
　第２節　基本層序 …… 6
第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物 …… 7
　第１節　土坑 …… 7
　第２節　遺構外出土遺物 …… 11
まとめ …… 18
引用・参考文献 …… 18
写真図版 …… 19
報告書抄録

挿図

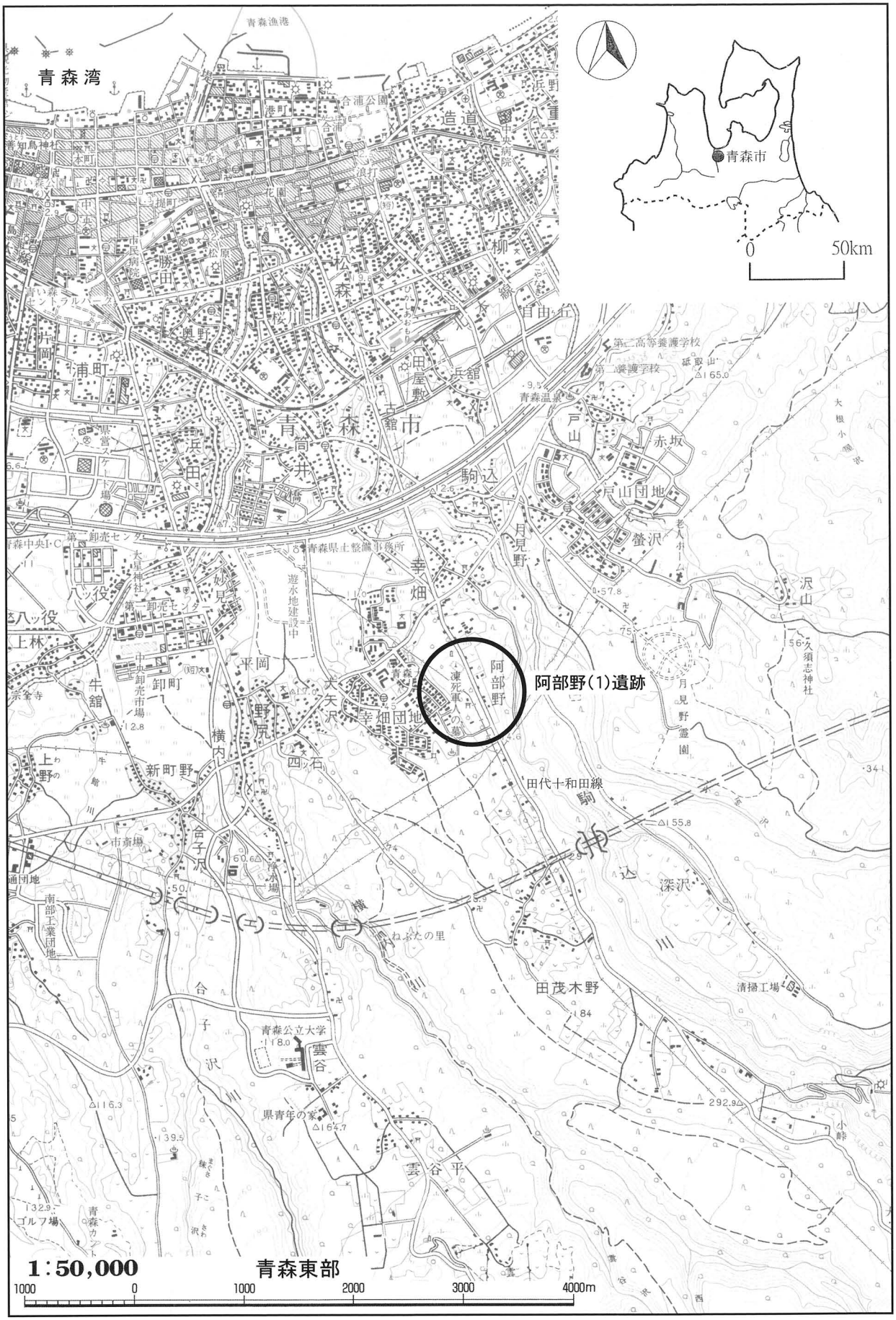
第１図　遺跡の位置
第２図　調査区の位置 …… 2
第３図　グリッド設定および遺構配置図 …… 3
第４図　周辺の遺跡 …… 5
第５図　基本層序 …… 6
第６図　土坑 …… 8
第７図　遺構内出土遺物(1)…… 9
第８図　遺構内出土遺物(2)…… 10
第９図　遺構外出土遺物(1)…… 12
第10図　遺構外出土遺物(2)…… 13
第11図　遺構外出土遺物(3)…… 14
第12図　遺構外出土遺物(4)…… 16

表

第１表　周辺の遺跡 …… 5
第２表　遺構内出土遺物観察一覧 …… 10
第３表　遺構外出土遺物観察一覧 …… 17

写真図版

写真１　検出遺構(1)…… 20
写真２　検出遺構(2)…… 21
写真３　検出遺構(3)…… 22
写真４　出土遺物(1)…… 23
写真５　出土遺物(2)…… 24
写真６　出土遺物(3)…… 25


青森湾
青森漁港
青森市
0
50km
阿部野(1)遺跡
1:50,000
青森東部
1000 0 1000 2000 3000 4000m

第１図　遺跡の位置

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成19年３月26日、青森市教育委員会文化財課に東北電力株式会社青森支店より市内数ヶ所の高圧送電線（沖館線）鉄塔建設用地について照会があり、遺跡地図との照合を行ったところ、鉄塔№.38・39両地点が阿部野（1）遺跡に該当することが明らかとなった。協議の結果、平成20年２月４日～２月25日の日程で確認調査を実施することとなり、鉄塔№.38地点（64㎡）に５ヶ所のトレンチ、鉄塔№.39地点（64㎡）に４ヶ所のトレンチを設定し、遺構確認を行った（調査面積18㎡）。その結果、鉄塔№.38地点から土坑・ピットを数基確認したほか、縄文早期～後期の土器・石器等を検出した（青森市教育委員会2008）。

確認調査の結果を受けて、事業者と再度協議し、鉄塔№.38地点について平成20年２月27日～３月13日の日程で発掘調査を実施することとなった。

第２節　調査要項

１．調査の目的

高圧送電線（沖館線）鉄塔建設工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図るとともに、地域における文化財の活用に資する。

２．遺跡名および所在地

阿部野（1）遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号　01050）

青森市大字幸畑字阿部野

３．発掘調査期間　　平成20年２月27日～3月13日

４．調 査 面 積　　72㎡

５．調 査 委 託 者　　東北電力株式会社青森支店

６．調 査 受 託 者　　青森市

７．調査担当機関　　青森市教育委員会事務局文化財課

８．調査指導機関　　青森県教育庁文化財保護課

９．調 査 体 制　　調査事務局　青森市教育委員会（平成19年度）

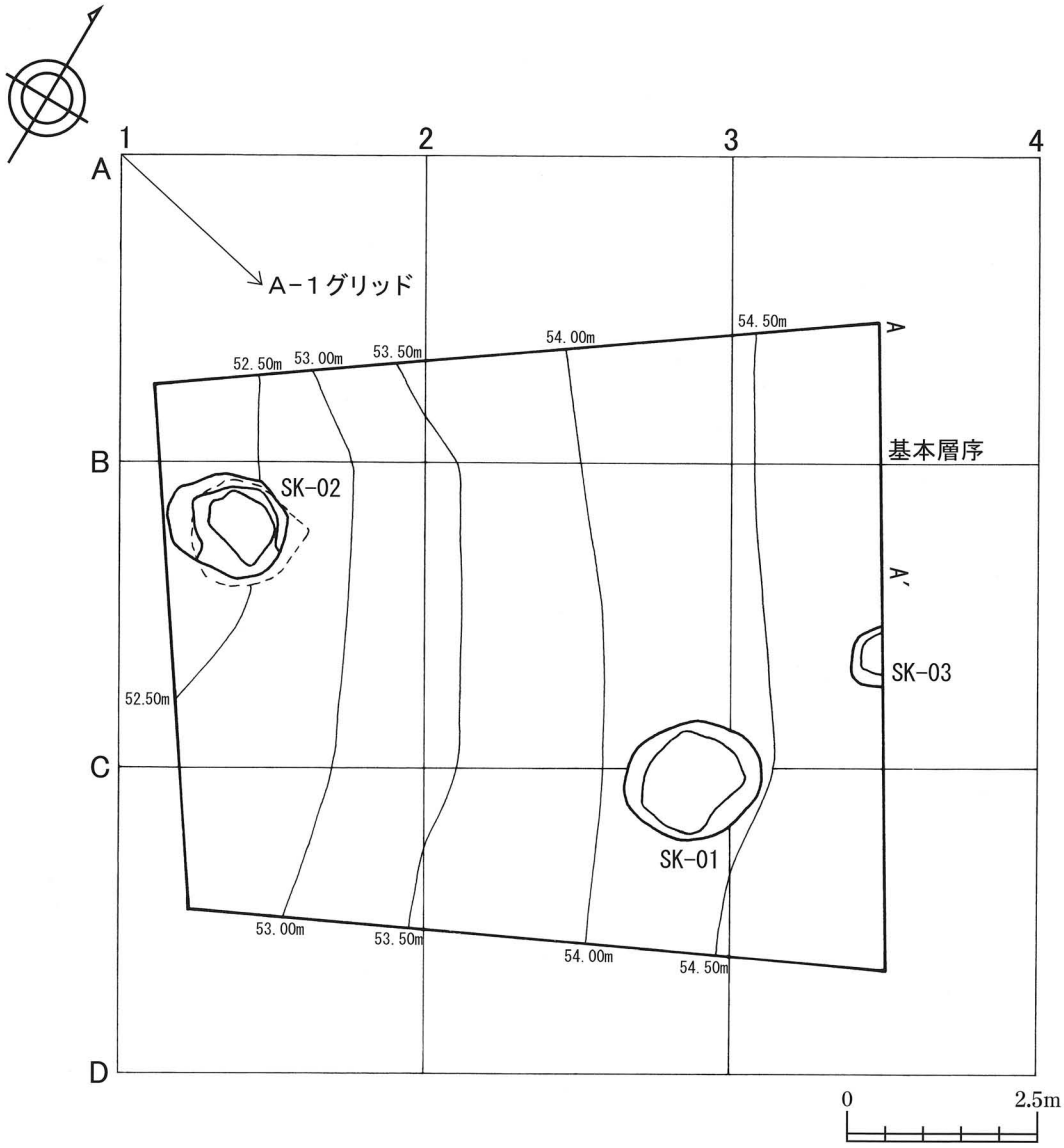
教　育　長	角田詮二郎	文化財主事	小野　貴之
教育部長	古山　善猛	〃	児玉　大成（調整担当）
次　　長	相馬　政美	〃	設楽　政健（調査担当）
参事・文化財課長事務取扱	遠藤　正夫	主　　事	吹田　夕貴（庶務担当）
主　　幹	藤村　和人	〃	竹ヶ原亜希（　〃　）
文化財主査	木村　淳一	埋蔵文化財調査員	野坂　知広

第２図　調査区の位置

第３節　調査方法

調査区は遺跡範囲内の南側にあたり、方形に近い形状を呈している(第２図)。公共座標に基づいた任意の起点から、調査区全体が網羅されるように４×４ｍのグリッドを設定した(第３図)。グリッドの呼称は、南側に向かってＡ、Ｂ、Ｃ・・・の順にアルファベット、東側に向かって１、２、３・・・の順に算用数字を付し、両者の組み合わせで示した(例：Ａ－１グリッド)。測量原点は、主要地方道青森田代十和田線沿いの三角点（標高74.60m)より移動を行った。

発掘調査は、確認調査における遺構確認面(地山ローム層上面)まで重機で慎重に表土を剥ぎ取り、確認された遺構について順次精査していく方法をとった。遺構精査は、２分法を用いて断面図を作成し、平面図は簡易遣り方測量とトータルステーションを併用した。縮尺は原則として20分の１とし、写真は遺構確認状況、土層断面、完掘状況、遺物出土状況を主に撮影した(デジタルカメラ使用)。



第３図　グリッド設定および遺構配置図

第４節　調査経過

平成20年２月27日、発掘調査開始。重機による遺構確認面までの掘削を行い、その後、鋤簾がけにより遺構確認を行った。土坑３基を検出し、調査区北東側から順に遺構精査を実施した。調査区は西側へ傾斜する斜面上にあり、雪が降ると滑りやすくなるため、作業は時間を要したが、調査委託者である東北電力株式会社青森支店の社員３氏に発掘作業を手伝って頂いたこともあり、３月13日にすべての作業を終了し、機材等を撤収した。

（設楽　政健）

第Ⅱ章　遺跡の概要

第１節　地理的・歴史的環境

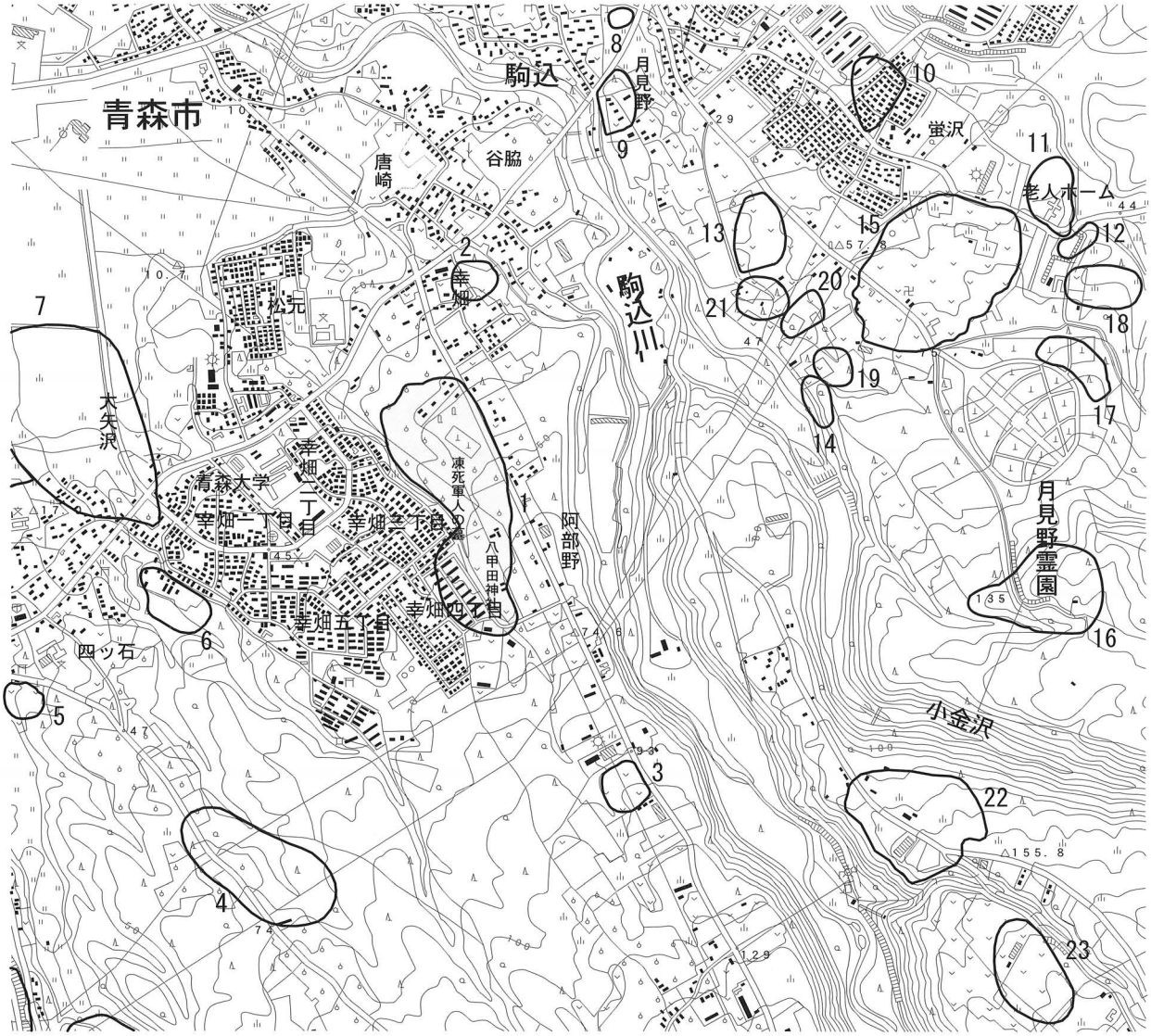
阿部野（１）遺跡は、中心市街地から南に約５～６㎞離れた青森市大字幸畑字阿部野地内に所在しており、駒込川左岸の台地（微高丘陵）上、標高50～60m内外に占地する（第１図）。横内川支流の小河川（沢）を挟んだ西側には宅地（幸畑団地）が広がるが、本遺跡周辺は民家もまばらで、畑地・果樹園が多い。また、遺跡範囲内には幸畑墓苑（陸軍墓地）と八甲田神社が鎮座する。

本遺跡の立地する台地は、黒色・黒褐色土を主体とする表土に覆われているが、『土地分類基本調査』（青森県1982）によると、地山は八甲田山の火山噴出物によって構成されており、「下位より、溶結凝灰岩、軽石粒堆積物、火山泥流、火山灰ＡおよびＢに区別される」という。火山灰Ａは「黄灰白色～青灰白色の凝灰岩でスコリア粒や安山岩細粒を含んでいる」ことから三内火山灰層に比定され、火山灰Ｂは「下位より、赤褐色粘土質火山灰、砂質の浮石粒を含む火山灰および淡黄褐色の軽石質火山灰等に細分される」ことから、下位の大谷火山灰層、上位の月見野火山灰層にそれぞれ比定されている。

水系を詳しく見れば、酸性河川である駒込川流域にはほとんど遺跡が分布していないが（青森市教育委員会1998）、駒込川右岸の大字駒込字月見野周辺（赤川水系）は縄文遺跡が多いことで知られている（第４図）。玉清水（１）遺跡は、昭和40・41年に当教育委員会が発掘調査を実施し、縄文時代晩期前半の配石遺構・土坑などのほか、該期の土器・石器・岩版等を検出した（青森市教育委員会1967）。昭和59年には早稲田大学考古学研究室も学術調査を行っており（櫻井清彦ほか1985）、玉清水周辺で採集された土器・石製品等は、青森県立郷土館にも一部収蔵・展示されている。玉清水（３）遺跡は、昭和44・45年に当教育委員会が発掘調査を実施し、縄文時代前期末葉の竪穴住居跡などを検出した（青森市教育委員会1971）。

月見野（１）遺跡は、昭和44年・昭和53年・平成18年の過去三度に亘って発掘調査が実施されており、昭和53年には整地作業中に縄文時代後期前葉の土器棺墓１基が発見され、内部に１体分の人骨が納められていた。平成18年度の調査では、縄文時代の土坑174基、小ピット127基、土器棺墓１基のほか、平安時代の竪穴住居跡21軒を検出し、縄文時代のみならず、平安時代の集落跡も埋蔵されていることを再確認した。また、縄文時代後期前葉に特徴的な遺物である三角形・円形岩版が72点出土しており、該期の墓域があったと推定されている（北林1968・葛西1974～1976・葛西ほか1978・青森市教育委員会2007）。

阿部野（１）遺跡は、昭和49年、当教育委員会により市営住宅（幸畑団地）建設に伴う発掘調査が実施されており、縄文時代早期後半（ムシリⅠ式）の土器片ならびに平安時代の竪穴住居跡６軒・土坑１基が検出されている（報告書未刊、藤田1975・日本考古学協会1976・葛西1978）。比較的大型の第３号住居跡は銅製品の工房跡に推定されており、出土した坩堝などとともに注目を集めた。また、平成14年には幸畑墓苑再整備事業に伴い試掘調査が実施され、遺跡範囲が拡張されている（青森市教育委員会2003）。今回の調査地点に近い南側斜面からは縄文土器（前期～中期）が、比較的平坦な北側の緩斜面上からは土師器・須恵器（平安時代）が多く採集されているが、その実態は詳しく分かっていないのが現状である。



第４図　周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡

番号	遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	種　別	時　代	文　献
1	01050	阿部野(1)遺跡	大字幸畑字阿部野	集落跡	縄文、奈良、平安	藤田1975、日本考古学協会1976、葛西1978、青森市教育委員会2003・2008
2	01219	阿部野(2)遺跡	大字幸畑字阿部野	散布地	平安	
3	01220	阿部野(3)遺跡	大字幸畑字阿部野	散布地	平安	
4	01028	四ツ石(1)遺跡	大字四ツ石字里見	集落跡	縄文（中・後）、平安	青森市教育委員会1965
5	01215	四ツ石(3)遺跡	大字四ツ石字里見	散布地	縄文	
6	01236	大矢沢里見遺跡	大字大矢沢字里見	散布地	縄文	
7	01292	大矢沢野田遺跡	大字大矢沢字野田・字里見	集落跡	縄文、平安	青森市教育委員会2000・2001・2002
8	01295	見吉遺跡	大字駒込字蛍沢	散布地	平安	
9	01048	駒込館遺跡	大字駒込字桐ノ沢	城館跡	平安、中世	青森市教育委員会2003
10	01057	蛍沢遺跡	大字駒込字月見野・字蛍沢	集落跡	縄文、弥生、平安	青森市教育委員会1979
11	01010	月見野(1)遺跡	大字駒込字蛍沢	集落跡	縄文（後）、平安	葛西ほか1978、青森市教育委員会2007
12	01192	月見野(2)遺跡	大字駒込字蛍沢	散布地	縄文、弥生、平安	
13	01221	月見野(3)遺跡	大字駒込字月見野	散布地	縄文（後）、平安	
14	01235	月見野(4)遺跡	大字駒込字月見野	散布地	縄文（後・晩）	青森市2006
15	01264	月見野(5)遺跡	大字駒込字月見野	散布地	縄文	
16	01286	月見野(6)遺跡	大字駒込字深沢	散布地	縄文	
17	01009	月見野霊園遺跡	大字駒込字月見野	散布地	平安	
18	01042	沢山(1)遺跡	大字駒込字月見野	散布地	縄文（晩）	葛西ほか1994
19	01006	玉清水(1)遺跡	大字駒込字月見野	散布地	縄文（晩）	青森市教育委員会1967、櫻井ほか1985
20	01007	玉清水(2)遺跡	大字駒込字月見野	散布地	不明	
21	01008	玉清水(3)遺跡	大字駒込字月見野	散布地	縄文（前）	青森市教育委員会1971
22	01234	深沢(2)遺跡	大字駒込字深沢	散布地	縄文（前・後）	
23	01054	梨の木平遺跡	大字駒込字深沢	集落跡	縄文（晩）	

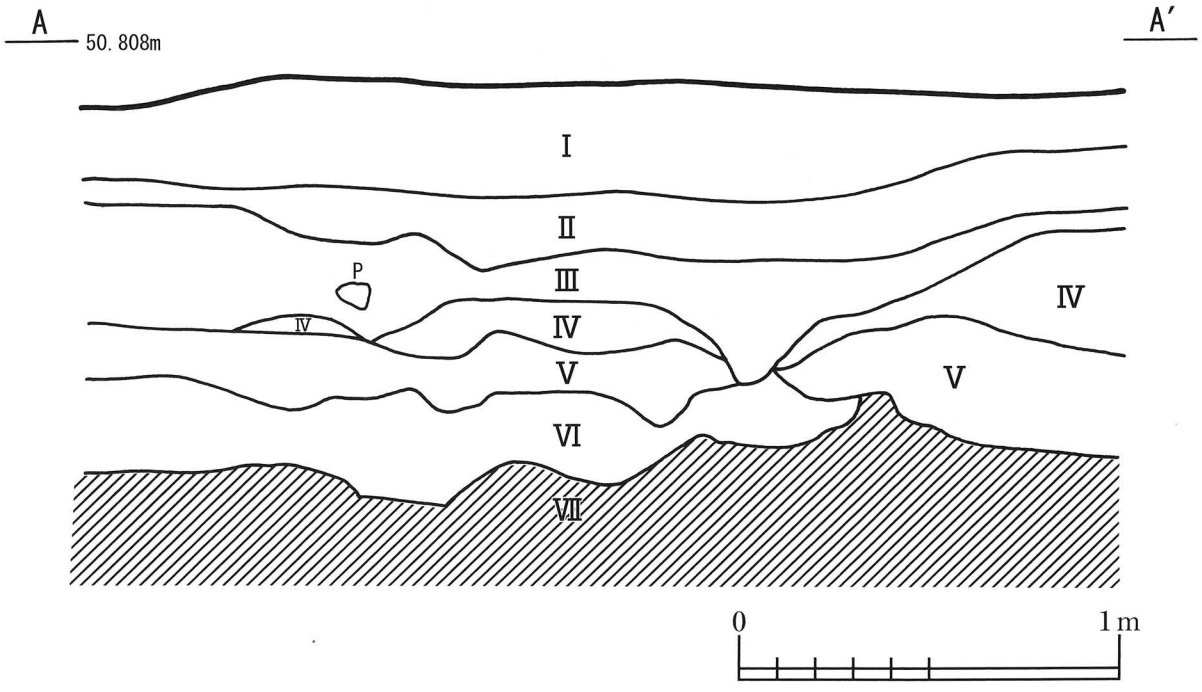
第2節　基本層序

基本層序は、調査区北東壁(A・B－3グリッド、第3図)で観察し、おおむね7層に分層された。黒色土を主体とする第Ⅲ層には縄文中期の土器片が混在しており、本来の遺構面は第Ⅲ層～第Ⅳ層にあった可能性が高い。第Ⅴ層・第Ⅵ層は漸移層と思われ、第Ⅶ層(地山ローム)は上位の月見野火山灰層を主体とし、下位に大谷火山灰層が観察される。

今回の調査区は、沢へ向かって傾斜する地形に占地しており、調査区東端と西端には約2.4mの比高差がある。土層の内容は以下の通りである(第5図)。

(野坂　知広)

第Ⅰ層　黒　色　土　10YR1.7/1　表土層、植物根多量
第Ⅱ層　黒 褐 色 土　10YR2/3　植物根多量
第Ⅲ層　黒　色　土　10YR2/1　炭化粒(φ2～4㎜)少量、縄文土器(中期)混在
第Ⅳ層　黒 褐 色 土　10YR3/2　炭化粒(φ1～2㎜)少量、焼土粒(φ1～2㎜)微量
第Ⅴ層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　漸移層、パミス(φ1～5㎜)少量、炭化粒(φ2～4㎜)極微量
第Ⅵ層　にぶい黄褐色土　10YR5/3　漸移層、パミス(φ1～7㎜)中量、炭化粒(φ2～5㎜)微量
第Ⅶ層　黄 褐 色 土　10YR5/6　地山ローム(上位に月見野火山灰層、下位に大谷火山灰層)



第5図　基本層序

第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物

第１節　土坑

第１号土坑（SK-01、第６図）

Ｂ・Ｃ－２・３グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、規模は長軸182cm×短軸152cm×深さ19cmを測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は３層に分層され、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物は、縄文土器が５点（第７図１～５）あるが、第７図５はLR斜縄文を地文とする３本組みの沈線が横位・斜位に施文される縄文中期後葉の榎林式と思われる。第７図１～４はRL・LR斜縄文が観察されるのみであるが、おおよそ縄文中期に属する資料であろう。本土坑の帰属時期は、出土遺物により縄文時代中期後半に比定される。

第２号土坑（SK-02、第６図）

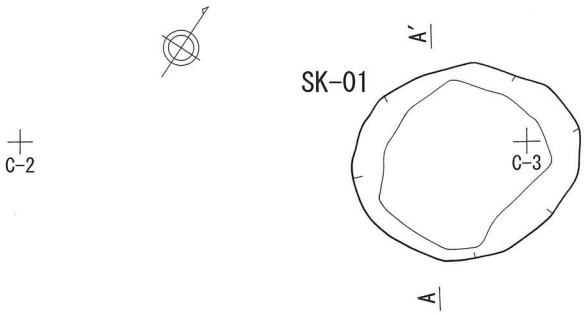
Ｂ－１グリッドに位置する。平面は楕円形、断面は下位で内傾するフラスコ状を呈し、底面は平坦である。規模は開口部が長軸156cm×短軸129cm、底面が長軸151cm×136cm、深さ98cmを測る。覆土は14層に分層され、おおむね自然堆積と思われる。

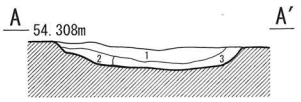
出土遺物は、縄文土器が17点（第７図６～18、第８図19～22）あるが、第７図６は幅広の条痕文が観察される縄文早期の資料であろう。第７図７は胎土に繊維が混入し、多軸絡条体回転文が施文される縄文前期末葉の円筒下層ｄ式と思われる。第７図８～10は胎土に繊維が混入する縄文前期中葉の円筒下層ａ式と思われ、同一個体の可能性がある。第７図11も口唇部に縄文を押圧し、口縁部に結節回転文を施文する円筒下層ａ式であり、遺構外出土土器（第10図21）と同一個体と思われる。第７図12・13はLR斜縄文を地文とする１本～２本組みの沈線が横位・縦位に施文される円筒上層ｅ式と思われる。第７図14・15は口唇部が肥大し沈線を巡らす縄文中期後葉の榎林式と思われ、第７図14は口縁下部に３本組みの沈線が斜位に施文される。第７図16・17はLR斜縄文を地文とする縦位の沈線が施文される縄文中期末葉の最花式と思われる。第７図18、第８図19～21はRL・LR・RLR斜縄文が観察されるのみであるが、おおよそ縄文中期に属する資料であろう。第８図19は器面（外面）にスス（煤）の付着が見られる。第８図22は格子目状の沈線が特徴的な縄文後期前葉の十腰内Ⅰ式と思われる。本土坑の帰属時期は、出土遺物により縄文時代中期後半に比定される。

第３号土坑（SK-03、第６図）

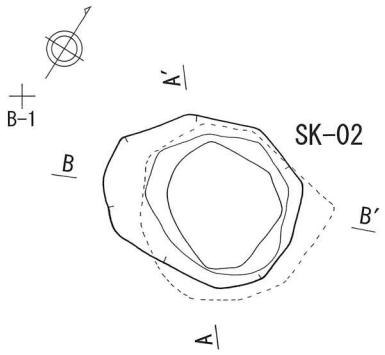
Ｂ－３グリッドに位置する。平面は楕円形を呈すると思われるが、東側半分は調査区外にある。規模は現存長軸65cm×現存短軸42cm×深さ67cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は７層に分層され、おおむね自然堆積と思われる。

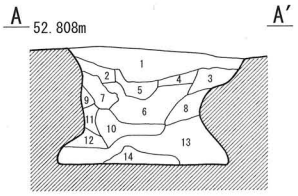
出土遺物は、縄文土器が１点（第８図23）あり、胎土に繊維が混入し、口縁部に縄文圧痕および棒状工具の刺突が見られる縄文前期中葉の円筒下層ｂ式と思われる。本土坑の帰属時期は不明である。

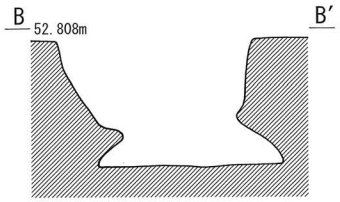




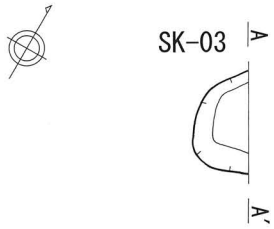
ＳＫ－０１
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒（φ1～2mm）少量
第２層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ1～4mm）微量
第３層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1～2mm）微量

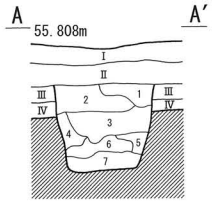






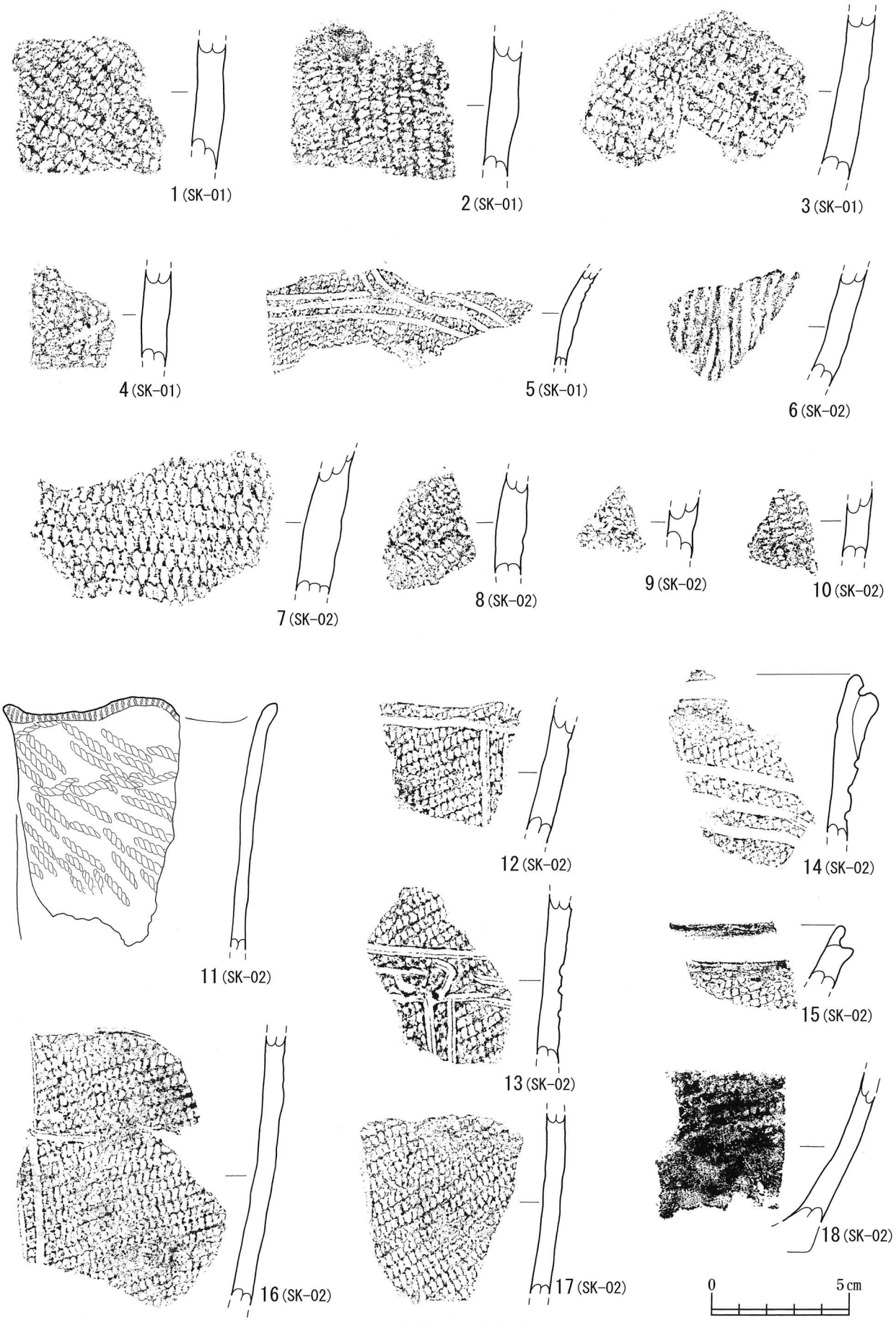
ＳＫ－０２
第１層　黒　色　土（10YR2/1）　ローム粒（φ1～2mm）少量、炭化粒(φ2～４mm)少量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1～3mm）微量
第３層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ1～2mm）中量
第４層　黒褐色土（10YR2/2）　炭化粒（φ2～3mm）微量
　　ローム粒（φ1～2mm）微量、焼土粒（φ2～7mm）微量、
第５層　黒褐色土（10YR2/3）　炭化粒（φ2～3mm）少量
第６層　黒　色　土（10YR1.7/1）　ローム粒（φ3～5mm）微量、炭化粒（φ4～6mm）少量
第７層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ2～3mm）微量、炭化粒（φ1～2mm）少量
第８層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　パミス粒（φ2～3mm）極微量
第９層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　パミス粒（φ2～3mm）極微量
第10層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ2～5mm）少量、炭化粒（φ2～3mm）少量
第11層　黒褐色土（10YR2/1）　ローム粒（φ3～7mm）少量、炭化粒（φ3～6mm）少量
第12層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒（φ2～4mm）微量
第13層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒（φ2～3mm）中量、ロームブロック（φ13mm）極微量
第14層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ2～5mm）中量、炭化粒（φ3～4mm）微量



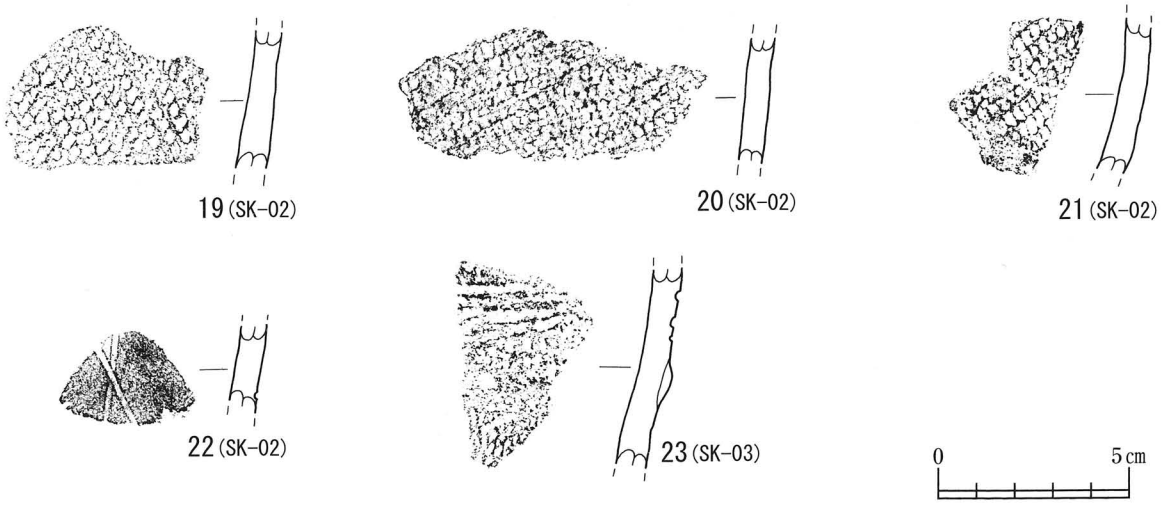


ＳＫ－０３
第１層　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（φ2～4mm）微量
第２層　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒（φ3～5mm）少量、炭化粒（φ2～3mm）微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1～3mm）中量、炭化粒（φ1～4mm）少量
第４層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒（φ3～8mm）少量
第５層　暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒（φ2～7mm）中量
第６層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ2～5mm）少量
第７層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ2～8mm）多量、炭化粒（φ1～3mm）微量、焼土粒（φ2mm）極微量

第６図　土坑



第７図　遺構内出土遺物（１）



第８図　遺構内出土遺物（２）

第２表　遺構内出土遺物観察一覧

図版番号	器種	出土位置	層位	部位	文様	時期	備考
第7図1	深鉢	SK－01	中層	胴部	RL	縄文中期	
第7図2	深鉢	SK－01	中層	胴部	RL	縄文中期	内面に調整痕
第7図3	深鉢	SK－01	中層	胴部	RL	縄文中期	部分的にミガキ
第7図4	深鉢	SK－01	中層	胴部	LR	縄文中期	
第7図5	深鉢	SK－01	中層	胴部	沈線、LR	榎林式	
第7図6	深鉢	SK－02	上層	胴部	条痕文	縄文早期	
第7図7	深鉢	SK－02	上層	胴部	多軸絡条体	円筒下層d式	繊維混入
第7図8	深鉢	SK－02	上層	胴部	結束第二種(LR)	円筒下層a式	繊維混入、第7図9・10と同一個体
第7図9	深鉢	SK－02	下層	胴部	結束第二種(LR)	円筒下層a式	繊維混入、第7図8・10と同一個体
第7図10	深鉢	SK－02	下層	胴部	LR	円筒下層a式	繊維混入、第7図8・9と同一個体
第7図11	深鉢	SK－02	中・下層	口縁～胴部	口唇:L押圧、口縁:RL結節回転、胴部:RL(直前段反撚)	円筒下層a式	第10図21と同一個体
第7図12	深鉢	SK－02	上層	胴部	沈線、LR	円筒上層e式	
第7図13	深鉢	SK－02	上層	胴部	沈線、LR	円筒上層e式	
第7図14	深鉢	SK－02	上層	口縁～胴部	口縁隆帯(口唇沈線)、沈線、LR	榎林式	
第7図15	深鉢	SK－02	上層	口縁部	口縁隆帯(口唇沈線)、LR	榎林式	
第7図16	深鉢	SK－02	上層	胴部	沈線、LR	最花式	
第7図17	深鉢	SK－02	上層	胴部	沈線、LR	最花式	
第7図18	深鉢	SK－02	上層	胴部	RL	縄文中期	
第8図19	深鉢	SK－02	上層	胴部	RLR	縄文中期	スス付着
第8図20	深鉢	SK－02	上・下層	胴部	LR	縄文中期	
第8図21	深鉢	SK－02	上層	胴部	LR	縄文中期	
第8図22	深鉢	SK－02	上層	胴部	沈線(格子目文)	十腰内Ⅰ式	
第8図23	深鉢	SK－03	下層	口縁～胴部	口縁:RL圧痕、棒状工具の刺突、隆帯、胴部:LR	円筒下層b式	繊維混入

第２節　遺構外出土遺物

１．縄文土器

本調査においては、図示できないほどの小片を除き、遺構内から23点（第７・８図）、遺構外から59点（第９～11図）の縄文土器が出土した。破片であるため、器種・部位ともに判然としないものもあるが、詳細は観察表（第２・３表）にまとめている。所産時期は、縄文時代前期、縄文時代中期、縄文時代後期に大別し、さらに土器型式ごとに区分して記述した。観察表の時期項目は表記が統一されていないが、土器型式の分かるものは型式名（例：円筒上層ｅ式）を記し、分からないものについては大別時期（例：縄文中期）をそのまま掲載した。ここでは、遺構外出土の縄文土器について述べる。

縄文時代前期

早稲田６類…前期初頭の早稲田６類と思われる土器片が１点（第９図１）出土している。RL縄文が施文され、胎土には繊維が混入する。尖底土器深鉢の胴部片と思われる。

円筒下層ａ式…前期中葉の円筒下層ａ式と思われる土器片が３点（第９図２・３、第10図21）出土している。第９図２は胎土に繊維が混入し、Ｒ単軸絡条体第１類が回転施文される土器である。第９図３はＬＲＬ複節斜縄文が施され、胎土の繊維混入は明瞭でない。第10図21は波状口縁を呈す小型の深鉢形土器であり、口唇部には縄文が押圧され、口縁直下には結節回転文が観察される。SK-02出土の土器（第７図11）と同一個体であろう。

円筒下層ｄ式…前期末葉の円筒下層ｄ式と思われる土器片が９点（第９図４～８・10～13）出土している。いわゆる木目状撚糸文（単軸絡条体第1Ａ類）の土器が２点あり、第９図４・５は、それぞれ単軸絡条体第１Ａ類が縦位に回転施文されている。第９図６は結束第一種（LR・RL）が縦位に回転施文され、第９図７は結束第一種（LR）が、第９図８は結束第二種（LR）が横位に回転施文される土器である。第９図10～13は、単軸絡条体第１類が回転施文されている。

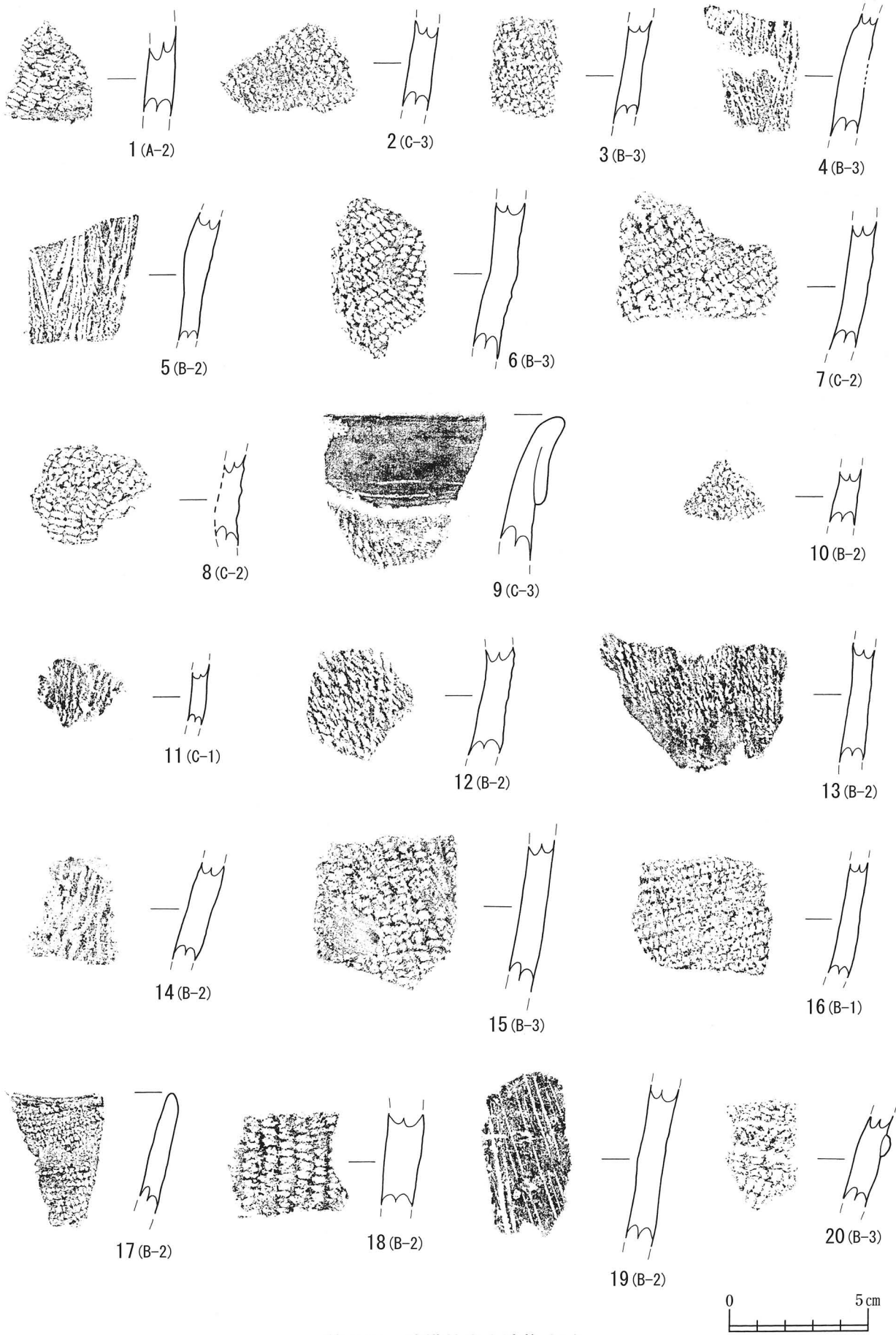
その他の土器…型式名不詳の土器片を一括した（第９図14～18）。第９図14はＬ単軸絡条体第１類が回転施文されるが、前期中葉の円筒下層ｂ式の可能性があろう。他はＬＲ斜縄文の土器（第９図15～18）がある。第９図18は円筒下層ｄ式に特徴的な内面研磨（ミガキ調整）が観察される。

縄文時代中期

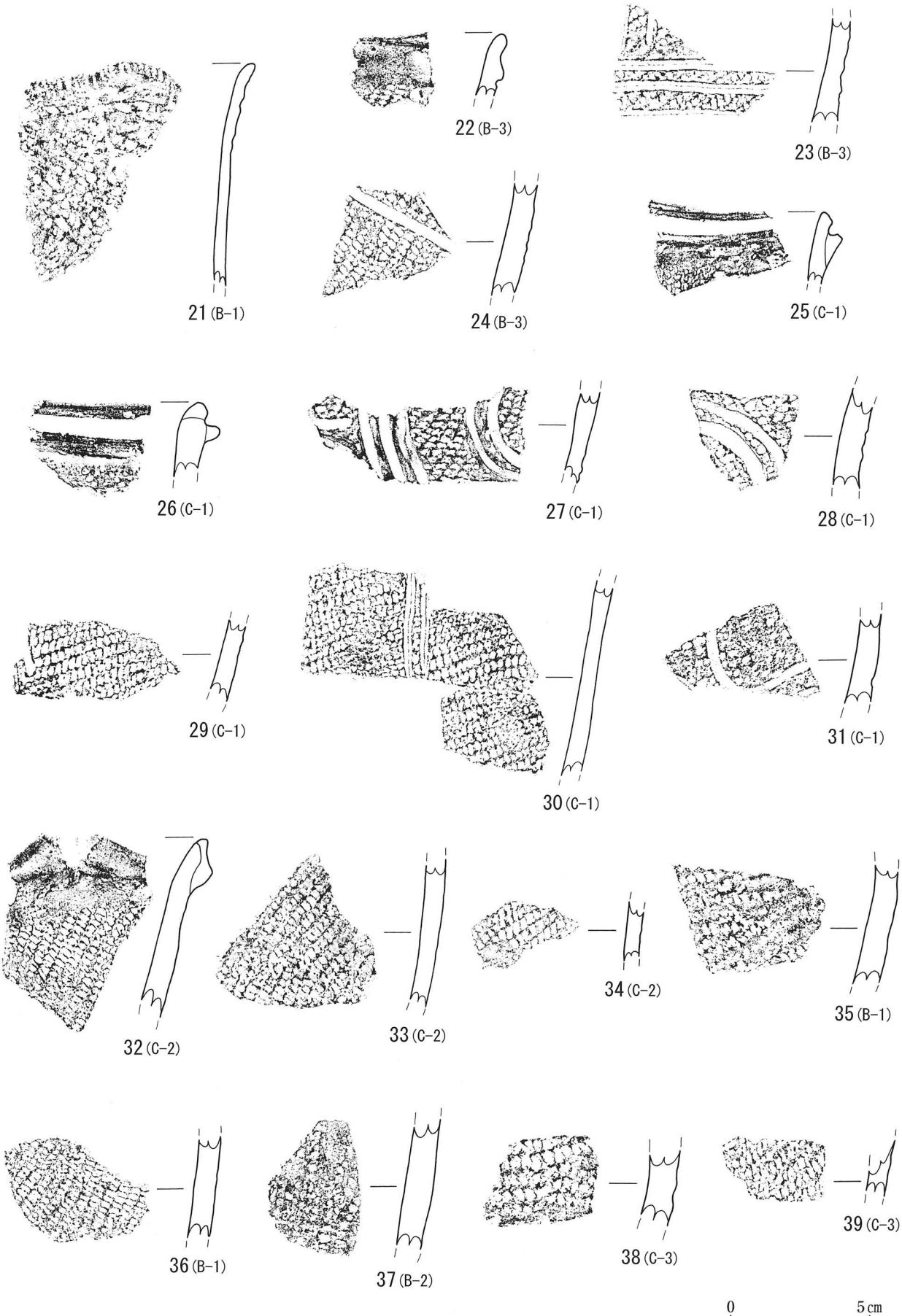
円筒上層ｄ式…中期前葉の円筒上層ｄ式と思われる土器片が１点（第９図20）出土している。口縁部近くの貼付隆帯には縄文が刻目状に押圧されている。

円筒上層ｅ式…中期中葉の円筒上層ｅ式と思われる土器片が４点（第10図22～24・30）出土している。第10図22は口縁部に指頭圧痕による凹部を持ち、胴部にはLR斜縄文が施される。第10図23は縦位・横位に２本１組に見える沈線、第10図24は斜位に沈線が施文され、LR斜縄文を地文とする。

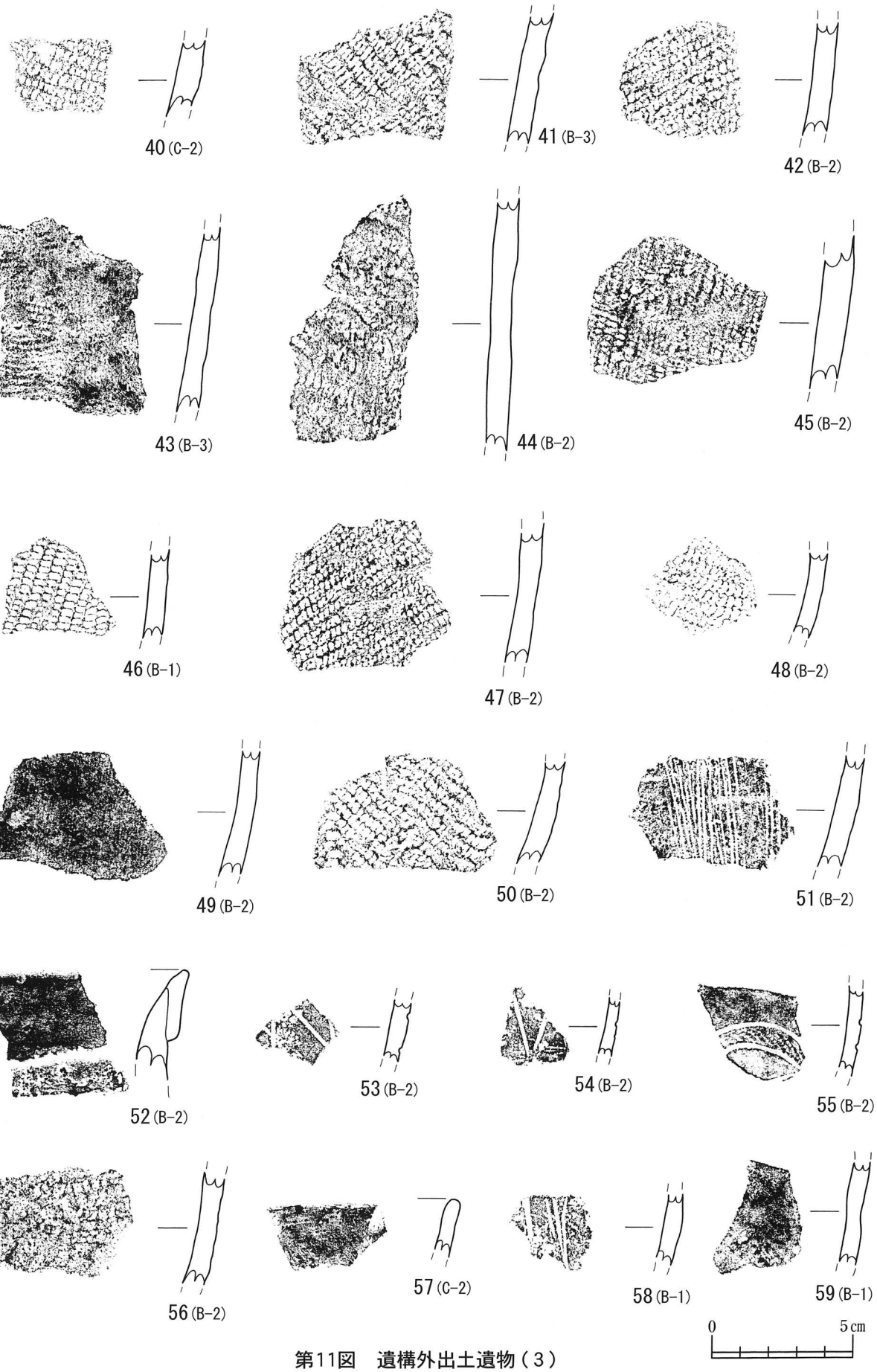
榎林式…中期後葉の榎林式と思われる土器片が５点（第10図25～29）出土している。第10図25・26は口縁部が肥大し、口唇に沈線を巡らす特徴的な形状を呈し、胴部にはRL縄文が施文される。第10図27・28は渦巻文風の２本～３本沈線が引かれ、LR・RL斜縄文を地文とする。第10図29は縦位に２本沈線が施文されている。



第9図　遺構外出土遺物(1)



第10図　遺構外出土遺物（２）



第11図　遺構外出土遺物(3)

最花式…中期末葉の最花式と思われる土器片が１点（第10図30）出土している。２本組みの沈線が縦位に施文され、LR斜縄文を地文とする。

大木10式並行期…中期最終末の土器と思われる土器片が２点（第９図９、第10図31）出土している。第９図９は無文となる折り返し口縁を持ち、第10図31はLR斜縄文を地文とし、曲線的な沈線が施される土器である。

その他の土器…型式名不詳の土器片を一括した（第10図32～39、第11図40～51）。第10図32は僅かに内湾する無文の波状口縁を呈し、中期後半の土器と推定される。第10図33もおおよそ同時期の資料であろう。他はRL・LR斜縄文が見られる胴部資料である。

縄文時代後期

十腰内Ⅰ式…後期前葉の十腰内Ⅰ式と思われる土器片が４点（第11図52～55）出土している。第11図52は折返し口縁が無文となる資料であり、第11図53・54は胴部に施文された格子目状の沈線が特徴的な土器である。第11図55は曲線的な２本沈線で区切られた磨消縄文であり、十腰内Ⅰ式直前（小牧野３期）の資料と思われる。

その他の土器…型式名不詳の土器片を一括した（第９図19、第11図56～59）。第11図56は縄文時代後期初頭に位置付けられる土器と思われる。第11図57は無文の口縁部、第11図58は細い沈線が引かれた胴部資料であるが、ともに十腰内Ⅰ式期に属する可能性があろう。

２．石　　器

敲石が２点（第12図60・61）、磨石が１点（第12図62）出土している。ちょうど手のひらで握れる程度の大きさの自然礫が選択されており、第12図60は最大長9.9cm、現存幅5.9cm、現存厚1.6cm、重量138.0ｇを測る。敲打痕（凹部）が二つ観察され、裏面は破損しているが両面に亘って使用されていた可能性があろう。第12図61も欠損しており、現存長6.9cm、最大幅7.0cm、最大厚3.5cm、重量262.0ｇを測る。敲打痕（凹部）は正面に二つ、裏面に二つ、先端部に一つ観察される。

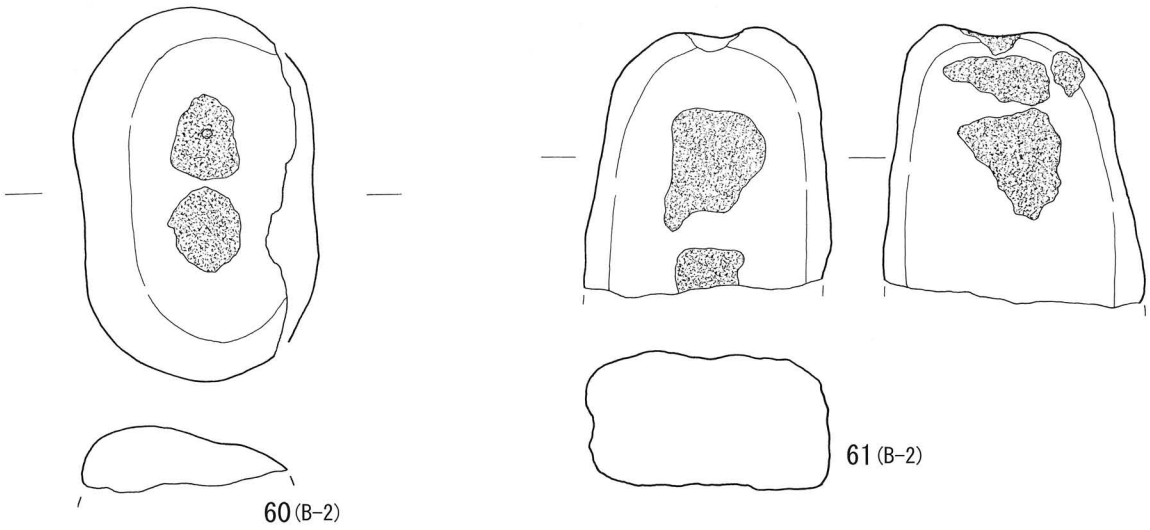
第12図62は現存長7.7cm、最大幅6.8cm、最大厚4.0cm、重量294.0ｇを測り、両面に亘って磨面（使用痕）が観察される。３点ともに堅果類などを調理するために使用された植物食関連の石器と推定されよう。おおむね縄文土器と同じ所産時期と思われる。

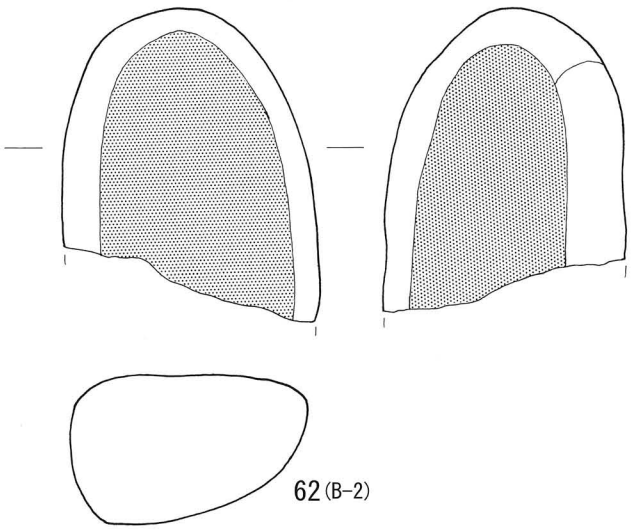
３．土師器・擦文土器

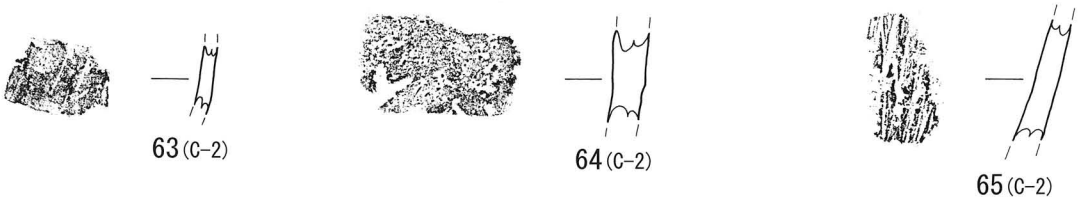
土師器が２点（第12図63・64）、擦文土器が１点（第12図65）出土している。第12図63は小片のため器種・部位ともに判然としないが、甕の胴部であろうか。器面色調は赤褐色を呈し、外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ調整が観察される。第12図64も甕の胴部と思われ、内外面ともにヘラナデ調整が見られる。

第12図65は擦文土器の甕胴部と思われ、線の細い特徴的な条痕文が観察される。器面（外面）にはスス（煤）の付着が見られる。３点ともに平安時代の所産であろう。

（野坂　知広）







第12図　遺構外出土遺物(4)

第３表　遺構外出土遺物観察一覧

図版番号	器　種	部　位	出土位置	層　位	文　様	時　期	備　考
第９図１	深鉢	胴部	Ａ－２	Ⅲ層	RL	早稲田６類	繊維混入
第９図２	深鉢	胴部	Ｃ－３	Ⅲ層	R単軸絡条体第１類	円筒下層a式	繊維混入
第９図３	深鉢	胴部	Ｂ－３	Ⅴ層	LRL	円筒下層a式	
第９図４	深鉢	胴部	Ｂ－３	Ⅲ層	R単軸絡条体第１A類	円筒下層d式	
第９図５	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	L単軸絡条体第１A類	円筒下層d式	繊維混入
第９図６	深鉢	胴部	Ｂ－３	Ⅳ層	結束第一種（LR・RL）、LR	円筒下層d式	
第９図７	深鉢	胴部	Ｃ－２	Ⅲ層	結束第一種（LR）	円筒下層d式	繊維混入
第９図８	深鉢	胴部	Ｃ－２	Ⅲ層	結束第二種（LR）	円筒下層d式	
第９図９	深鉢	口縁部	Ｃ－３	Ⅲ層	折返し口縁：無文、RL	大木10式並行	
第９図10	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	R単軸絡条体第１類	円筒下層d式	
第９図11	深鉢	胴部	Ｃ－１	Ⅲ層	R単軸絡条体第１類	円筒下層d式	
第９図12	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	L単軸絡条体第１類	円筒下層d式	
第９図13	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	L単軸絡条体第１類	円筒下層d式	
第９図14	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	L単軸絡条体第１類	縄文前期	
第９図15	深鉢	胴部	Ｂ－３	Ⅲ層	LR	縄文前期	
第９図16	深鉢	胴部	Ｂ－１	Ⅲ層	LR	縄文前期	
第９図17	深鉢	口縁部	Ｂ－２	Ⅲ層	LR	縄文前期	
第９図18	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	LRL	縄文前期	内面ミガキ
第９図19	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	条痕文	縄文後期	
第９図20	深鉢	口縁部	Ｂ－３	Ⅲ層	貼付隆帯（L押圧）、LR	円筒上層d式	
第10図21	深鉢	口縁～胴部	Ｂ－１	Ⅲ層	口唇：L押圧、口縁：RL結節回転、RL（直前段反撚）	円筒下層a式	第７図11と同一個体
第10図22	深鉢	口縁部	Ｂ－３	Ⅲ層	口縁：指頭圧痕、LR	円筒上層e式	
第10図23	深鉢	胴部	Ｂ－３	Ⅲ層	沈線、LR	円筒上層e式	
第10図24	深鉢	胴部	Ｂ－３	Ⅲ層	沈線、LR	円筒上層e式	
第10図25	深鉢	口縁部	Ｃ－１	Ⅲ層	口縁隆帯（口唇沈線）、RL	榎林式	
第10図26	深鉢	口縁部	Ｃ－１	Ⅲ層	口縁隆帯（口唇沈線）、RL	榎林式	
第10図27	深鉢	胴部	Ｃ－１	Ⅲ層	沈線、LR	榎林式	
第10図28	深鉢	胴部	Ｃ－１	Ⅲ層	沈線、RL	榎林式	
第10図29	深鉢	胴部	Ｃ－１	Ⅲ層	沈線、LR	榎林式	
第10図30	深鉢	胴部	Ｃ－１	Ⅲ層	沈線、LR	円筒上層e式	
第10図31	深鉢	胴部	Ｃ－１	Ⅲ層	沈線、LR	大木10式並行	
第10図32	深鉢	口縁部	Ｃ－２	Ⅲ層	波状口縁：隆帯（無文）、LR	縄文中期後半	
第10図33	深鉢	胴部	Ｃ－２	Ⅲ層	LR	縄文中期後半	
第10図34	深鉢	胴部	Ｃ－２	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第10図35	深鉢	胴部	Ｂ－１	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第10図36	深鉢	胴部	Ｂ－１	Ⅲ層	RL	縄文中期	
第10図37	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第10図38	深鉢	胴部	Ｃ－３	Ⅲ層	RL	縄文中期	
第10図39	深鉢	胴部	Ｃ－３	Ⅲ層	RL	縄文中期	
第11図40	深鉢	胴部	Ｃ－２	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第11図41	深鉢	胴部	Ｂ－３	Ⅴ層	RL	縄文中期	
第11図42	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	RL	縄文中期	
第11図43	深鉢	胴部	Ｂ－３	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第11図44	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	RL	縄文中期	
第11図45	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第11図46	深鉢	胴部	Ｂ－１	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第11図47	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第11図48	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第11図49	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	無文	縄文中期	
第11図50	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	LR	縄文中期	
第11図51	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	条痕文	縄文中期	
第11図52	深鉢	口縁部	Ｂ－２	Ⅲ層	折返し口縁（無文）	十腰内Ⅰ式	
第11図53	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	沈線（格子目文）	十腰内Ⅰ式	
第11図54	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	沈線（格子目文）	十腰内Ⅰ式	
第11図55	深鉢	胴部	Ｂ－２	表採	沈線（磨消縄文、RL）	縄文後期初頭	
第11図56	深鉢	胴部	Ｂ－２	Ⅲ層	LR	縄文後期初頭	
第11図57	深鉢	口縁部	Ｃ－２	Ⅲ層	無文	縄文後期	
第11図58	深鉢	胴部	Ｂ－１	Ⅲ層	沈線	縄文後期	
第11図59	深鉢	胴部	Ｂ－１	Ⅲ層	無文、RL	縄文後期	
第12図63	土師器甕	胴部	Ｃ－２	上層	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ	平安時代	
第12図64	土師器甕	胴部	Ｃ－２	Ⅲ層	内外面ヘラナデ	平安時代	
第12図65	擦文土器甕	胴部	Ｃ－２	Ⅲ層	外面条痕	平安時代	

ま と め

阿部野(1)遺跡は、青森市大字幸畑字阿部野地内に位置している。高圧送電線(沖館線)鉄塔建設工事に先立ち、平成20年2月27日～3月13日の日程で建設予定地を対象に発掘調査を実施した(72㎡)。調査の結果、土坑3基を検出したほか、ダンボール箱換算で1箱分の土器・石器等が出土した。

土坑は平面形がすべて楕円形であるが、断面形に相違がある。第1号土坑(SK-01)は断面が緩やかに外傾して立ち上がり、第2号土坑(SK-02)は下位で内傾するフラスコ状を呈し、第3号土坑(SK-03)はほぼ垂直に立ち上がる。3基ともに覆土は自然堆積と思われるが、遺構内より出土した土器片は埋没時に混入したものであり、覆土層位は土器型式を反映しない。出土土器の主体、すなわち、本調査区の主体となる時期は、縄文前期末葉(円筒下層d式)～縄文中期末葉(最花式)に比定されよう。本調査区は、集落縁辺にあたるものと思われる。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護の趣旨をご理解いただき、発掘調査実施にあたり多大なご協力を賜った東北電力株式会社青森支店に対しまして厚くお礼申し上げます。

(担当者一同)

引用・参考文献

青　　森　　市　2006　『新青森市史』資料編1 (考古)
青森市教育委員会　1965　『四ツ石遺跡調査概報』
青森市教育委員会　1967　『玉清水遺跡調査概報』
青森市教育委員会　1971　『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1979　『蛍沢遺跡』
青森市教育委員会　1998　『市内遺跡詳細分布調査報告書』
青森市教育委員会　2000　『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
青森市教育委員会　2001　『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
青森市教育委員会　2002　『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2003　『市内遺跡発掘調査報告書11』
青森市教育委員会　2007　『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2008　『市内遺跡発掘調査報告書16』
葛　西　　勵　　1974　「青森県下の縄文文化後期の改葬甕棺墓遺跡について」『北奥古代文化』第6号
葛　西　　勵　　1974　「青森市周辺の後期縄文土器(3)」『うとう』第80号
葛　西　　勵　　1975　「青森市周辺の後期縄文土器(4)」『うとう』第81号
葛　西　　勵　　1976　「青森市周辺の後期縄文土器(5)」『うとう』第82号
葛　西　　勵　　1978　「青森市阿部野遺跡出土の縄文時代早期の土器」『うとう』第85号
葛　西　　勵ほか　1978　「青森市月見野遺跡発見の縄文後期の甕棺と人骨」『撚糸文』第7号
葛　西　　勵ほか　1994　「青森市沢山(1)遺跡の出土遺物」『撚糸文』第21号
葛　西　　勵　　2002　『再葬土器棺墓の研究』
北 林 八洲晴　　1968　『青森県の原始時代研究録』1
櫻 井 清 彦ほか　1985　「青森市玉清水遺跡発掘調査概報」『考古学ジャーナル』252
日本考古学協会　1976　『日本考古学年報』27 (1974年版)
藤 田 亮 一　　1975　「青森市内出土の早期縄文式土器片」『うとう』第81号

写　真　図　版

調査区近景（東→）

SK－01完掘（西→）

写真１　検出遺構(１)

SK－02セクション（北東→）

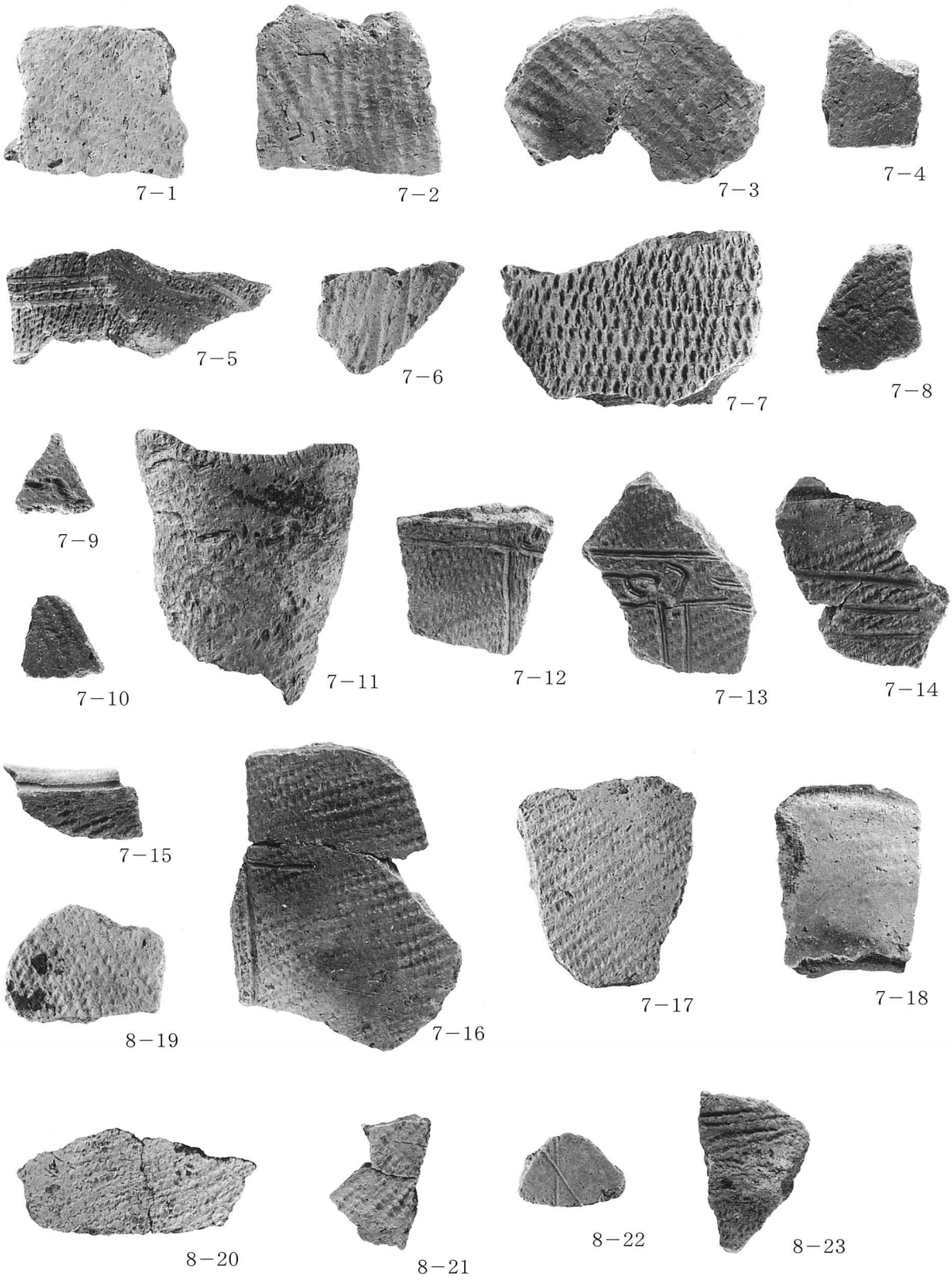
SK－02完掘（南西→）

写真２　検出遺構（２）

SK－03完掘（南西→）

調査風景（西→）

写真３　検出遺構(３)



（S＝1／2）

写真４　出土遺物（１）

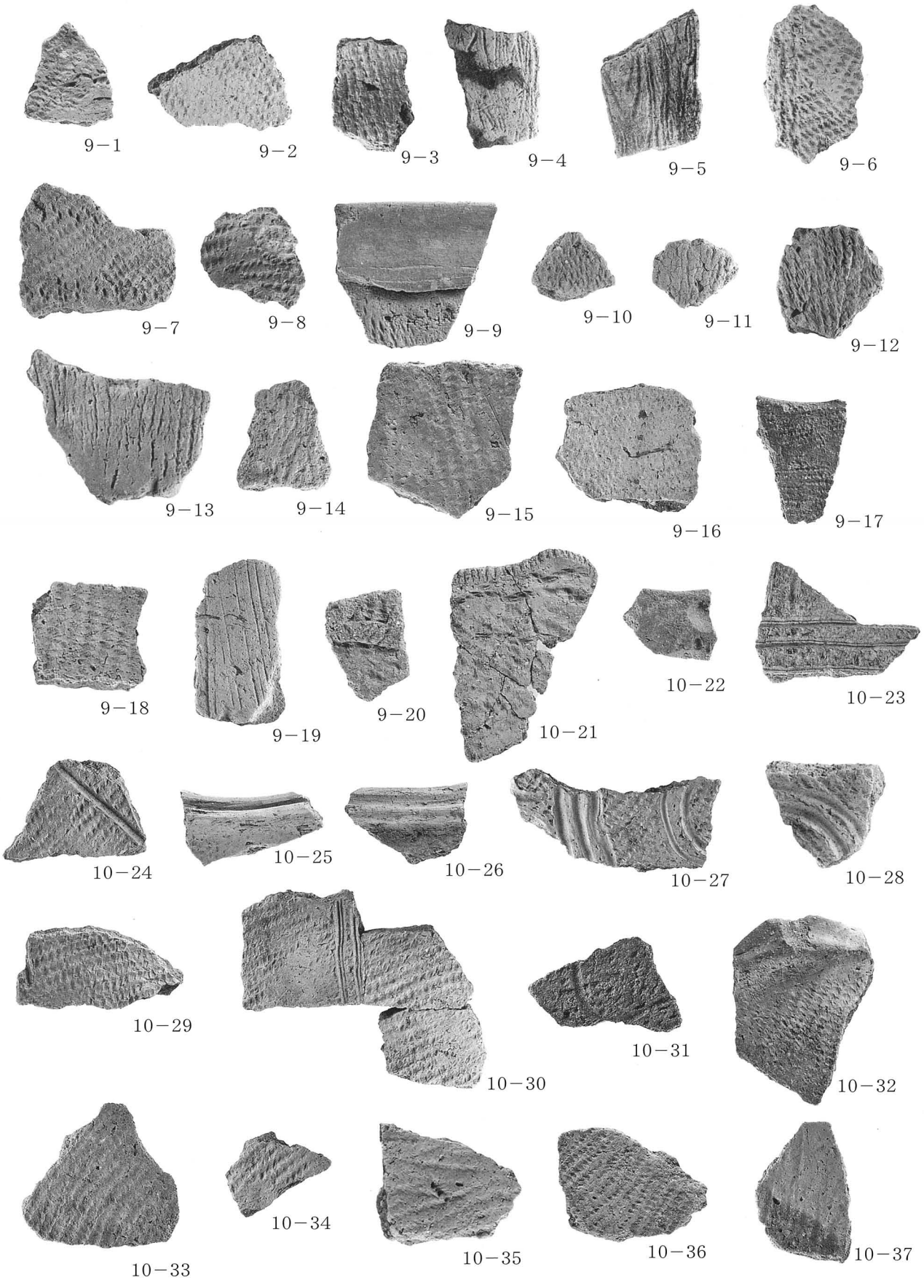


写真５　出土遺物（２）　　（Ｓ＝１／２）

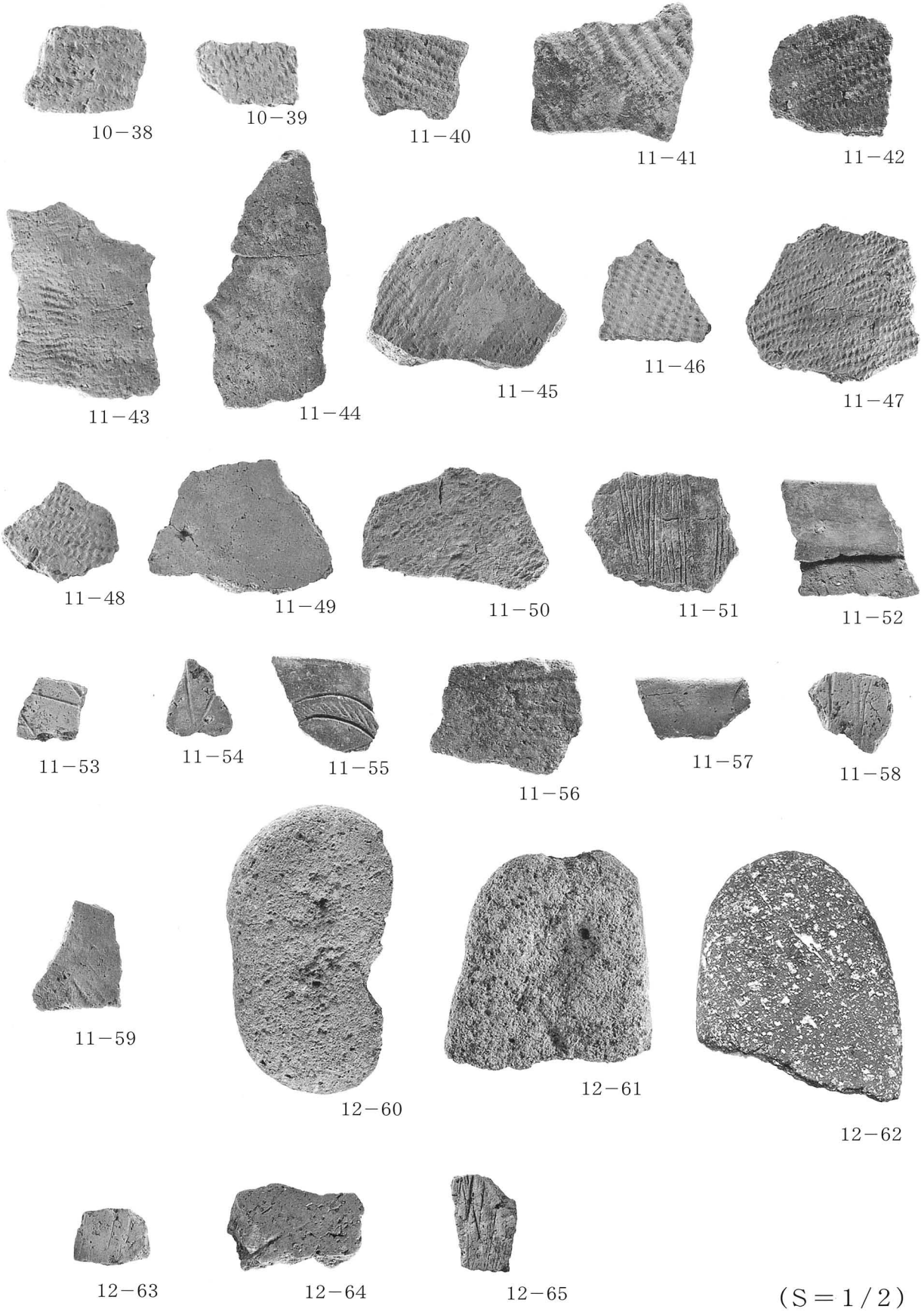

10－38
10－39
11－40
11－41
11－42
11－43
11－44
11－45
11－46
11－47
11－48
11－49
11－50
11－51
11－52
11－53
11－54
11－55
11－56
11－57
11－58
11－59
12－60
12－61
12－62
12－63
12－64
12－65
（S＝1／2）

写真６　出土遺物（３）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	あべのかっこいちいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	阿部野（1）遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第100集
編 著 者 名	設楽政健、野坂知広
編 集 機 関	青森市教育委員会
所　在　地	〒038-8505　青森県青森市柳川二丁目1番1号　TEL017－761－4796
発 行 年 月 日	西暦2009年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		世界測地系（JGD2000）		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
阿部野（1）遺跡（あべの いせき）	青森県青森市（あおもりけんあおもりし） 大字幸畑字阿部野（おおあざこうばたあざあべの）	02201	01050	40°46′52″	140°47′22″	20080227 ～ 20080313	72㎡	高圧送電線鉄塔建設工事に先立つ事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
阿部野（1）遺跡	集落跡	縄文時代	土坑　3基	縄文土器 石器	

要　約	1．阿部野（1）遺跡は、駒込川左岸の台地（微高丘陵）上、標高54メートル内外の地点に位置している。 2．発掘調査は高圧送電線鉄塔建設予定地72㎡を対象に実施した。 3．調査の結果、縄文時代の土坑３基を検出した。主体時期は縄文時代前期末葉～中期末葉である。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『蛍沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983	『山野峠遺跡』
		1985	『長森遺跡発掘調査報告書』
		1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
		1987	『横内城跡発掘調査報告書』
		1988	『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第32集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃	第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第36集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
〃	第49集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第51集	2000	『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃	第56集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	第57集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第58集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃	第61集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第62集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第63集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第65集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃	第66集	2003	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第67集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃	第71集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第72集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第73集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第74集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃	第75集	2004	『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃	第76集	2005	『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第77集	2005	『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃	第78集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃	第79集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃	第80集	2005	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第81集	2005	『石江遺跡群発掘調査概報』
〃	第82集	2006	『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第83集	2006	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第84集	2006	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第85集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
〃	第86集	2006	『市内遺跡発掘調査報告書14』
〃	第87集	2006	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第88集	2006	『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書Ⅱ』
〃	第89集	2006	『篠原遺跡発掘調査報告書』
〃	第90集	2007	『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第91集	2007	『市内遺跡発掘調査報告書15』
〃	第92集	2007	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第93集	2007	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第94集	2007	『石江遺跡群発掘調査報告書』
〃	第95集	2008	『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』
〃	第96集	2008	『葛野遺跡群発掘調査報告書』
〃	第97集	2008	『市内遺跡発掘調査報告書16』
〃	第98集	2008	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第99集	2009	『市内遺跡発掘調査報告書17』
〃	第100集	2009	『阿部野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第101集	2009	『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第102集	2009	『細越館遺跡発掘調査報告書』

青森市埋蔵文化財調査報告書　第100集

阿部野（1）遺跡発掘調査報告書

発行年月日　平成21年３月31日

発　　行　青森市教育委員会
〒038-8505　青森市柳川二丁目１番１号
TEL　017－761－4796

印　　刷　株式会社　精工プロセス
〒030-0964　青森市南佃１丁目17番41号
TEL　017－741－3011